

コドモとオトナを行き来して

向寒の候、皆様はいかがお過ごしでしょうか。先日の雨の日以降急に冷え込みましたね。今月末にはもう雪が降るのではないのでしょうか。私事ですが今年こそは白雪の積もった金閣寺を見に行きたいと決意しています。お昼ぐらいくると雪が解けてしまっているの、朝起きてすぐに出発しないといけないのです。ちょうど深夜から朝にかけて雪が降っていることを願うばかりです。

さて今回は近況報告をふたつほどいたしたいと思います。みなさんは学生時代に国語の授業でどんなものがたりを読んだか覚えていますか？実は私は結構覚えている方で、特に重松清さんの「卒業ホームラン」やヘルマン・ヘッセさんの「少年の日の思い出」はいつまでも忘れられなくて卒後に本を購入して今も手元に置いています。最近はそのような昔に教科書で読んだきりになっている物語や詩がまとめられている文庫を集めています。特に詩集が多いですね。以前ここでの奨学生レポートでも紹介させていただいた茨木のり子さんをはじめ、俵万智さん、栗木京子さん、穂村弘さん…。あげだすとつきりありませんが、どの方の作品も魅力が詰まっています。単行本と違って文庫本は価格も抑えられますし、小さくて置き場所をとらないし、置いているだけでもなんだか小さくきらきらとした宝物のように感じるのです。電子書籍が流行していますが、紙の本ならではのあたたかみも捨てがたいものです。特に教科書に載っていたおはなしが収められている本などをお勧めしたいのは、まだ紙の本が主流だった幼いころにはじめてその物語と出会ったことをふと思い出して懐かしい気持ちになれるからです。文庫本集め、おすすめですよ。

もう一点報告です。少し前にかなりの長距離を歩く機会がございました。現在わたしが住まわせてもらっている弊学の学生寮である熊野寮において、11 月末から 12 月頭にかけて年に一度の寮祭がありました。その寮祭の名物企画の一つに「エクストリーム帰寮」というものがございます。内容はシンプルなもので、夜間に行先を知らされないままどこか遠く（距離は 10km～100km 程度まで 10km 単位で選ぶことができます）に車で運ばれて、そこから地図なしで歩いて帰ってくるだけ、というものです。ただいくつか制限があって、出発が深夜から朝方にかけてなので帰り道が夜間のため視界が悪いこと、財布を持って行ったり携帯電話を使って地図を見たりしてはいけないことなどです。とにかく目的はひたすら徒歩で寮を目指して帰ってくる、その一点です。数年前からこの企画に火が付き一気に寮内外で人気になったのですが、私は今まで参加できなかつたため今年初参加でした。初心者なのでとりあえず 20km を選択したところ、よく分からない山の中に車で運ばれ、けもの

道を歩いて帰ってくる羽目になりました。夜間であることも相まってかなり怖かったです。何人かで参加することも可能なため心配な方はチーム戦も可能です。ただ今回は一人で深夜にただ黙々と歩きたかったため単独で参加しました。さながら気分は「夜は短し歩けよ乙女」でした。

寒い季節になり外に出るのも億劫になってきましたが、だからこそ思い切ってたくさん出歩くのも楽しいですね。意外と体がぽかぽかしてきますし、あの寒さが心地よいと感じる瞬間があって、そういうときには子供に戻ったような活発な気分になります。前半の文庫本の話もそうで、童心に戻るきっかけというのは意外と身近に転がっているものなのですね。

これからさらに冷え込んでまいります、今年はなるべく去年よりも強く元気に過ごしたいと思います。当たり前なことなのですが、前回の冬より1歳をとっているのですのまま流されないように身も心も若い状態でいられるよう意識的になりたいものです。みなさまはこの冬どのようにお過ごしになる予定でしょうか。